



ニヨキ ニヨキ
新芽が 熊野古道に
“迎えるチカラ”
成長中

今回は、来訪者がよい旅ができるようにと、東紀州で奮闘する若いチカラに会いに行きました。
熊野市の市街地から車で約15分、山間集落の神川町で“地域おこし協力隊”として活動する北村美桂^{みか}さんは、東京から熊野へとやって来ました。

“地域おこし協力隊”とは、地方自治体から委嘱を受けた隊員が都市部から移住し、様々な地域協力活動をする、総務省の事業です。

熊野市神川町では、清流と山里の風景、春には圧倒されるようなサクラの饗宴、そして昭和30年代築の昔なつかしい木造の神上中学校旧校舎が暖かく迎えてくれます。北村さんは現在、ブログやマップづくりなどに取り組むほか、この校舎で訪れた人と地域住民が、自然な形で交流できないかと知恵をしばっています。「神川の風景の写真展や、落成当時の卒業生たちを集めて同窓会もしてみたい！」頭のなかの黒板には、色とりどりの未来予想図が描かれているようです。

でも…言葉は続きます。「訪れた人も迎える側も無理するのは楽しくないし、長く続かないと思う。地域のキャパシティに見合った“続く交流”を町の人と一緒に考えていきたい。」喜ばれるおもてなしをするためには、内側にしっかり目を向ける必要がある、そんな気がしました。

一方、東紀州生まれの“迎えるチカラ”も各地で活躍中です。そのうちのお一人、尾鷲市の内山裕紀子^{ゆきこ}さん（くまの体験企画代表）は、希望・目的に合わせた“完全オーダーメイドの旅”を個人から団体まで提供しています。エコツアーリズムのなかで「帰って感動を話したくなるような体験」を楽しんでほしいという



馬越峠をガイドする内山さん

内山さんですが、同時に、迎える体制を持続するためには「地域の活動団体との連携、地元への経済効果、案内する人が仕事になるような仕組みも必要」だと言います。自分が先達^{せんだつ}になり、この地域でガイドが若い人たちの仕事にもなれば、そんな思いで各地のセミナーなどにも講師として参加する現代の“熊野比丘尼”内山さんを、みなさんも見かけることがあるかもしれません。

“迎えるチカラ”は形も色々。観光や地域づくりに興味があった鎌田^{かみた}諒君は、埼玉から紀北町古里の民宿・紀伊の松島へインターンとして来ました。掃除やHPでの情報発信など、毎日忙しいなかでも大事にしているのは「お客さんにとってその一度が全て、自分の気持ちは浮き沈みしても仕事にムラをださない」こと。なんだか背筋がピンと伸びました。

旅の方法も多様化し、それを迎える方法としてコレが正解、というものはありません。しかし取材のなかで、受け入れる側がそれを長く続けられるための方法、人材が大切だと感じました。旅人を迎える活動は若い世代へも着実に広がっています。現在蒔かれた多くの種が新しい芽を出し、きっと未来の地域づくりを支えていってくれることと思います。



蒲団干しが日課の鎌田君





尾鷲ヒノキ製のカホン

カホンとは、南米ペルーで産まれた打楽器です。見た目は木の箱?椅子?と思う方も多くありますが、手で叩いてリズムを刻みます。電源がなくてもドラムのような音を奏でることができるエコな楽器!!叩く打面の厚みや材質によって全く違う音を奏でるカホンは、単純だけれども奥深い楽器です。

東紀州でこのカホンの製作活動を行っているのが、大紀町錦にある「ひのき工房 K'sファクトリー」の越後さん。13年前に工房を立ち上げてから、地域の名産である「尾鷲ヒノキ」の間伐材の有効活用を考え、まな板などの生活用品をはじめ、リラクゼーショングッズなどのオリジナル作品を制作販売しています。

また昨年からはじめたカホンは、木材をPRする“町おこし”、間伐材を活用する“エコ活動”、アート作品としての価値を考え、地域の演奏家やデザイナーなどと試行錯誤しながら、商品化されました。カホンは誰でも楽しく遊びながら木に触れ、上達する満足感も得ることができるなど、新しい可能性に満ちています。地のものを使った製品で楽しむことが広がっていくとともに、森林を大事に、環境を大切にしたい気持ちも大きくなっていきたく願っています。

熊野古道センター 開館4周年記念
第3回 熊野古道音楽祭

昼の部では、尾鷲中学・尾鷲高校による合同演奏、一般公募アーティストによる演奏のほか、キーボードとカホンで編成される、→Pia-no-jaC←をゲストに迎え合同演奏を行います。

また夜の部では、→Pia-no-jaC←のライブを開催します。自然に体が動き出す→Pia-no-jaC←の演奏で体も心も温めましょう。手拍子や身近なものでリズムを刻み全員が演奏者になれる参加型の演奏会です。尾鷲ヒノキ6500本で建てられた熊野古道センターで、木の香り、音の響きを楽しみながら、自然と人の新しい関係づくりが生まれるような、エコな演奏会を目指します。

出演

<昼の部>

2011 Winter Concert

尾鷲中学吹奏楽部・尾鷲高校吹奏楽部合同バンド 他
ゲスト: →Pia-no-jaC←

<夜の部>

→Pia-no-jaC← Live in 熊野古道センター
～ヒノキのあかりと音のセッション～

→Pia-no-jaC←

日時

平成23年2月13日(日)

昼の部:午後2時～開演
夜の部:午後7時～開演

入場料

無料

定員

昼の部
夜の部ともに 180名

*夜の部のみ1月5日(水)より
整理券配付

場所

交流棟大ホール

協力/NPO法人海虹路、K'sファクトリー、ラモシオン

大募集!

→Pia-no-jaC←と共演!!
音楽祭出演者大募集!

昼の部で演奏を披露し、会場を盛り上げてくれるアーティストを2組募集します。この地域の音楽を盛り上げていくためのきっかけづくりとなるような参加型の音楽祭を、一緒に盛り上げませんか?

◇応募資格:プロアマ、年齢、性別、音楽ジャンルは問いません。熊野古道、東紀州地域に親しみを持っている方、興味のある方。合同演奏に参加できる方。

締切 平成23年1月10日(月・祝) 定員 2組(演奏30分程度)
*当日必着

*その他詳細は、HPで確認いただくか、熊野古道センターまでご連絡ください。



→Pia-no-jaC←のお二人

川湯温泉『仙人風呂』がオープン

和歌山県からのお知らせ

今年も川湯温泉街を流れる大塔川に『仙人風呂』がオープンしました。

川を掘ればたちどころにお湯が湧くという大塔川の一部を堰きとめた野趣あふれる露天風呂です。周囲はよしず張りの囲いだけで、青空・星空を見上げながら入る開放感が好評です。2月の毎週土曜日(雨天中止)の午後8時から午後10時までの間、仙人風呂の周囲に灯籠が灯されます。

川湯温泉はその昔、「仙人」のお告げによって発見されたという言い伝えと、千人は入れるくらいの大きさと言うことで、『仙人(千人)風呂』と名付けられています。

自然の恵みを相手にしているため、その年によって多少大きさが変わりますが、およそ長さ50m・奥行き15m・深さ60cmで、川底から湧いている73度の源泉に、大塔川の清流を引き入れて40度前後に調整しています。

1月16日(日)には、仙人風呂新春かるた大会が開催され、浮かべた杉板製のかるたを取り、枚数を競います。4名1組で25組(先着)を募集しています。



かるた大会 in 仙人風呂

詳しくは、熊野本宮観光協会ホームページ <http://www.hongu.jp> をご覧ください。

和歌山県世界遺産センター

和歌山県田辺市本宮町本宮100番地の1 世界遺産熊野本宮館内
TEL:0735-42-1044 FAX:0735-42-1560



詳しくは、<http://www.sekaiisan-wakayama.jp/> をご覧ください。

Event Info.

企画展 「平成22年度 熊野古道写真学校&教室 作品展」

平成22年度開催の「第5回熊野古道写真学校(一般対象)」と、「めざせ!写真甲子園 熊野古道写真教室(高校生対象)」の参加者・地元スタッフ・講師による作品展示会です。

写真と風土を愛する心・プロ写真家の技・高校生の若い感性。東紀州の魅力をいろいろな角度から味わってください。

主催/三重県立熊野古道センター

後援/紀北町・尾鷲市・熊野市・東紀州観光まちづくり公社・三重県教育委員会

日 時:平成22年12月26日(日)~平成23年1月30日(日) 午前9時~午後5時
*12月31日(金)・1月1日(土)は休館

入 場 料:無料

場 所:企画展示室



伊藤大晃君(高校生)「森霊の住む道」

企画展 「熊野古道伊勢路のおもてなし ~“旅する人”と“迎える人”の交流~」

宿泊や休憩場所を提供し、食事を作り、時には行倒れた人を介抱するなど、西国巡礼や熊野参詣を目指した巡礼者の旅は、沿道の住民によって支えられてきました。

今回の展示では旅人を迎え入れた地域の側に焦点を当て、熊野古道伊勢路で今日まで続いてきた“旅する人”と“迎える人”との交流の歴史を、宿屋、茶屋、食など各テーマで紹介いたします。

日 時:平成23年2月5日(土)~4月10日(日) 午前9時~午後5時 会期中無休

入 場 料:無料

場 所:企画展示室



マクロの解体ショー in 熊野(「西国三十三所名所図会」)

付属イベント1 ① 新しい古道の歩き方 「世界遺産・鬼ヶ城と寒緋桜のおもてなし」

古い旅日記には、風光明媚な鬼ヶ城周辺で観光したり、お花見をしたという記事が見られます。むかしの旅人の楽しみをおすそわけ、冬に咲く寒緋桜と熊野の風景をめぐりましょう。

日 時:2月27日(日) 午後1時~4時 定 員:20名(要申込)
場 所:熊野市鬼ヶ城周辺 案 内:縣拓也(当センターコーディネーター)他

*諸事情によりコースが変更となる場合があります。

付属イベント2 ② 新しい古道の歩き方 「熊野古道始神峠のおもてなし」

熊野古道始神峠を越えながら、旅人が心と体を癒した峠の茶屋や、宿屋跡をたずねます。巡礼者の旅日記から、むかしの宿屋の食事を再現予定。

日 時:3月12日(土) 午後1時~4時 参加料:500円(保険料・資料代・軽食代含む)
場 所:熊野古道始神峠周辺 案 内:家崎彰氏(海山郷土史研究会)、始神峠の語り部さん
定 員:20名(要申込)

交流イベント

4/1(金)~4/3(日) 第6回熊野古道写真学校 ~桜咲く熊野を写そう!~

4月といえば桜の季節!!世界遺産・熊野古道や周辺の桜咲く熊野を舞台に、写真のスキルアップを目指す教室です。写真を通じて東紀州地域の魅力を楽しみに来てください!!

主催/三重県立熊野古道センター・熊野市

共催/東紀州観光まちづくり公社、後援/紀北町・尾鷲市・御浜町・紀宝町

◇集 合:4月1日(金) 午後1時30分 熊野市文化交流センター集合

◇場 所:三重県熊野市、御浜町、紀宝町内

◇定 員:40名(各コース20名、要申込)

◇参加料:12,000円(2日交流会昼食・3日昼食付)

◇講 師:清水重蔵氏、杉本恭子氏(どちらも日本写真家協会会員)

◇講 切:3月15日(火) *当日必着

◇申込先・宿泊のご案内:

熊野市観光公社 〒519-4324 三重県熊野市井戸町653-12

TEL:0597-89-2229 FAX:0597-89-3300

e-mail:kumanoshi-kankoukousha@sky.plala.or.jp

*参加料に宿泊料は含まれません。宿泊施設に限りがありますので、ご希望の方は早めに案内をお申出ください。



どんな写真が撮れたかな?

熊野市神川町の桜

講座・講演

1/22(土)・23(日) 熊野古道センターで星をみる おでかけプラネタリウムと、小惑星探査機“はやぶさ”映像上映会

直径約4mのエアドームのなかで、手が届くような360度満天の星空を眺めませんか。実際に星空を見たり星を探すのにも役立つ解説付き。同日には、話題の小惑星探査機“はやぶさ”の活躍がわかるスペシャル映像も上映予定。

時 間:プラネタリウム/①午後1時~1時20分、②午後2時10分~2時30分
「はやぶさ」上映会/①午後1時20分~1時50分、②午後2時30分~3時

*2日とも同時に開催

場 所:展示棟ロビー・映像ホール

定 員:プラネタリウムのみ各回20名(12月22日から申込開始)、上映会は事前申込不要

参加料:無料

講 師:みえこどもの城スタッフ

体験学習

1/2(日)~1/4(火) 特別企画「お正月だよ!!スペシャル体験教室」

熊野古道センターでは、お正月に様々な体験教室を開催します。楽しい思い出づくりには是非ご来館ください。すべて事前の申込は不要です。

とちもちもちつき、たちまちもちつき

◇日 時:1月2日(日) 午後0時30分~(無くなり次第終了)

◇参加料:無料

干支折り紙の飾り物づくり(卯)

◇日 時:1月2日(日) 午後1時~3時受付 ◇講 師:七見憲一氏(当センター理事)、むっそうええ会

◇参加料:300円

天まで昇れ!! 新春風づくり

◇日 時:1月3日(月) 午後1時~3時受付 ◇講 師:熊野古道センタースタッフ

◇参加料:100円

その場でできるひのきアート教室

◇日 時:1月2日(日)・3日(月) 午後1時~3時受付

◇参加料:ヒノキおしり 200円、お箸 300円 他

◇講 師:NPO法人海虹会員

これがほんとのおとしだま!?「木の勾玉」づくり

◇日 時:1月4日(火) 午後1時~3時受付

◇参加料:200円~500円

◇講 師:熊野古道センタースタッフ

*体験教室のほか、凧やコマなど、お正月の遊び道具を無料で貸し出します。



木勾玉のストラップ

月別ひのきアート教室

地元の特産品・尾鷲ヒノキの間伐材やヒノキシートなどを使って楽しむ、ものづくり教室です。

◇日 時:1月23日(日) 木のスプーン

2月27日(日) ミニついで

3月27日(日) ヒノキの花 すべて午後1時~4時

◇場 所:体験学習室 ◇定 員:各10名(要申込)

◇参加料:各1,000円 *連続講座ではありません ◇講 師:NPO法人海虹路会員

毎週日曜日は、事前申込不要の木工教室を週替りメニューにて開催中!!

2/6(日) 東紀州の四季を味わう料理教室 ~冬の味覚を味わう料理~

東紀州の旬の食材や特産品を使った大人気の料理教室です。寒い季節に心も温まる、東紀州の冬の味覚を味わってみませんか?

◇時 間:午前10時~午後1時

◇場 所:体験学習室

◇定 員:24名(要申込)

◇参加料:2,000円

◇講 師:村林新吾氏(相可高校食物調理科教諭)



熊野古道から のがみ

熊野古道から
のがみ

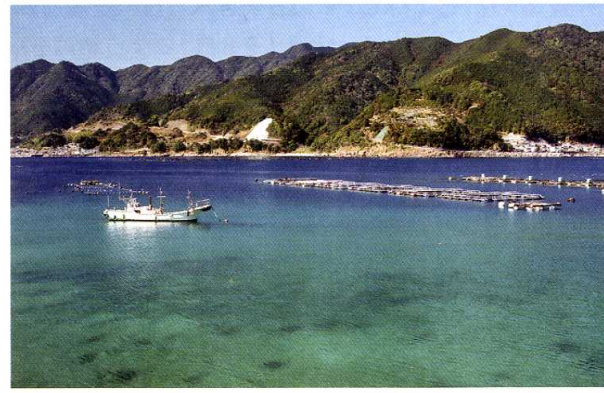
17 通目

横浜で写真の仕事をしていました
が、5年前に故郷である紀北町に帰
り写真館を経営しています。学生時
代から自然を撮影するのが好きで、
夏休みに帰ってきては東紀州の風景
を撮り、モノクロでプリントしてい
ました。このあたりの荒々しい波、
奇岩、石畳はモノクロにするのとて
も力強くなるので気に入ってしまし
た。

社会人になりこちらに帰ってき
てからも、時間があれば熊野古道
に登り、カラーネガ・デジタル両
方で自分がいいと思う風景を切り
取っています。古道の石畳も素晴
らしいですが、頂上から見える町
や海の景色が何よりも好きで、峠
を登りきった達成感もあり何度で
も足を運んでしまいます。

そして私が一番好きなのは海の色
です。天気によってさまざまに色を
変え、奇岩と絡めるといい写真にな
ります。日本全国をまわったわけ
はありませんが、この海の透明度は
本州でも屈指だと思おうので、もつと
アピールしてもよいのではないでし
ょうか。

最近撮影していて感じるのは、木
が伸びてきて以前より眺望がきかな
くなっていたり、案内板や安全のため
に張られたロープが増えているた
り、正直なところ前より少し撮りに
くくなってきています。いかに景観
を守りつつたくさんの方に来てもら
えるか、これからの課題ですね。



みちはた
道畑 祐介さん
(紀北町)
フォトグラファー

長い時間を経て残されてきた熊野
古道、自然の素晴らしさを、写真を
通してたくさんの人に伝えていけれ
ば、と思います。

筆リレー
次は紀北町の
井谷三枝子さん

花尻 薫からの季節のたより No.17 「生物多様性の姿 ～新春を待つ希少種の花々～」

動物は命をつなぐために様々な生き方をし、仲間同士が助け
合いながら生活をしています。植物は動物のように移動はできま
せんが、その種類に最適の場所を選んで、同じ種類同士が群落
をつくり、異なる植物を退けながら繁殖を続けているのです。こ
こで取り上げる2種類の絶滅危惧種の植物も、年末から新春にか
けて仲間を増やす努力をしているようです。



黄色があざやかなヒキノカサ

ヒキノカサ(キンポウゲ
科)は、河口周辺の湿地に
自生する茎の高さが10~20
cm前後の植物で、黄色い
花を一面に咲かせます。

自生している河口の泥沼の生活にも耐えられるように、特殊な紡錘
状の根を付けるのが特徴です。増水にも耐えられるような生態をし
ていますが、長期間の水没には耐えられないようです。紀伊半島で
も極めて少ない絶滅危惧のIA類に指定、保護されて、早春の花の
時期を待っているのです。

タイキンギク(キク科)は、南方から北上しながら熊野古道周辺に
までたどり着いた植物で、12月の北風吹く寒い時期に、海岸の陽だ
まりで黄色い花を盛り上がったように咲かせます。漢字で堆金菊と
書きますが、雪の降る頃に咲くので雪見菊とも言います。元は九州
や四国の暖地に自生していたものが、地球の温暖化で北上して熊野
古道周辺にたどり着いたようです。絶滅危惧種のIB類に指定され、
三重県内では熊野古道周辺にだけ自生しています。

センター敷地内『夢古道おわせ』へぜひお立ち寄りください!

お母ちゃんのランチバイキング
尾鷲・東紀州の食材をふんだんに使った、地元のお母さんの味です。

営業時間:	11:00~14:00
料金:	中学生以上 ……1,200円
	子供 ……700円
	乳幼児 ……無料
	60歳以上 ……1,000円

みえ尾鷲海洋深層水「夢古道の湯」

深海415メートルから取水された海洋深層水のお風呂。ミネラル分が豊富で保温性に優れているので、湯上がり後もホカホカです。

開館時間:	10:00~21:00
入浴料:	一般 ……600円
	65歳以上 ……500円
	4歳~小学生 ……300円
	4歳未満 ……無料



お風呂がかりは、カフェでまったり♪

営業時間:	9:00~21:00
	(ラストオーダー20:30)

*年末年始は「夢古道の湯」は無休、ランチバイキングは12月31日(金)・1月1日(土)がお休みです。



●お車で越しの方は…

国道42号線で尾鷲市内一矢の浜南交差点を海側へ曲がる一突き当たりを右折一県道を海沿いにしばらく走り、案内看板を右折して到着です。(国道から約10分)

●電車で越しの方は…

■JR尾鷲駅下車→ふれあいバス「尾鷲駅」バス停(徒歩1分)、または三重交通「尾鷲駅」バス停(徒歩5分)乗車→「熊野古道センター前」下車
■松阪駅
→南紀特急バス「熊野古道センター」終点下車(約2時間)



☆熊野古道センターニュースレター☆ “熊野古道センターからののがみ 2010年冬号”

- 発行日:2010年12月14日(季刊)
- 編集・発行:三重県立熊野古道センター
(三重県指定管理者 NPO法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク)
- 編集担当:縣
- 連絡先:
〒519-3625 三重県尾鷲市向井字村島12-4
TEL 0597-25-2666
FAX 0597-25-2667
Mail info@kumanokodocenter.com
HP http://www.kumanokodocenter.com/
- 開館時間:午前9時~午後5時
- 入場料:無料
- 休館日:12月31日、1月1日
(その他メンテナンス時休館)

60000101214TA

